

介護予防地域ぐるみで

住民が介護予防への関心を高め、地域で支え合う活動をする人材を育てようと、大山崎町で「『助け愛隊』サポーター養成講座」が開催されている。30日まで計6回にわたり、介護予防の基礎知識や健康づくり、地域づくりについて学ぶ。12日には「認知症予防はまず知ることから」をテーマに開催した。

大山崎町が人材養成講座

養成講座は、同町と大阪府摂大（大阪府摂大）が共同で進めていた。高齢化が進むなか、



クイズなどを通して楽しみながら認知症について学ぶ参加者（大山崎町円明寺・町中央公民館）

支援組織立ち上げ期待

ボランティアに携わる人材が育ち、地域ごとの介護予防サークルの立ち上げが期待されている。

会場は同町円明寺の町中央公民館で、9日から始まった。講師は、大阪人間科学大の教員や町地域包括支援センター職員、町職員が務める。

第2回の12日は、22人が同大学の杉原久仁子助教による説明や3択のクイズ方式などで認知症やその予防法、発症した人への関わり方を考えた。

杉原助教は「（認知症に関連する病気は）珍しい病気ではない。支え合いがあれば今まで通りの生活もできる。正しい知識を身に付けて」と呼び掛け、参加者は熱心に耳を傾けていた。

第1～5回のいずれか1回以上と第6回に参加すれば、修了証書が渡される。今後は15、22、26、30日に開催される。

対象は町在住者が在勤者で、問い合わせは町役場代表 ☎（956）2101 から健康課高齢介護係へ。
（峰政博）